

教科：社会科

ドラえもんのまちで学ぼう！！ ～プチ・ハザードマップ～ 指導要綱

学習指導要領との結びつき：〔第5学年及び第6学年〕

目標の一つより抜粋

「社会的事象を具体的に調査し、地図、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味について考える力を育てるようにする」

教科書との結びつき：「小学社会5年上」大阪書籍

目次より

日本の自然と人々の暮らし（自然とともに生きる人々）

⇒ **自然との共生と災害・地図記号の勉強**

準備するもの

児童用

- 専用のワークシート
- 色えんぴつ(または色ペン)

黒板用

- 拡大したワークシート
- 赤 (23 個)・青 (5 個)・緑 (12 個)・白 (任意) のマグネット
- リボン (水色)
- 青い色紙 (家の形に切り、裏にマグネットを張っておく)
- 地図記号を拡大したもの (地図上の [] に入る)

ねらい

ドラえもんの町中にどんな施設、防災設備があるか見てもらう。
その上で自分の町にどんな防災設備があるか。児童に気付いてもらう。

目標

- ① 地図記号の意味、使い方を覚える
- ② 災害時の避難の方法や、町の防災について知る。

手順

1. ワークシートを配布する。地図についての注意点を説明する。

[注意点]

- ドラえもんの町である。
- 秘密道具は使えない。(ドラえもんは未来に出張中。スペアポケットも修理中)
- 指定した設問だけを答えていく。(順番通りにしてもいいが、第6問は全ての設問の説明を終えてからする)

2. 設問1をする。

[設問1]

地図の()に合う記号はどれですか。下から選んで書きましょう。



児童がワークシートを書き終えたあと、黒板の地図で答え合わせをする。

3. 設問2をする。

[設問2]

のび太くんの家はどこですか。青色でぬりましょう。

児童がワークシートを書き終えたあと、黒板の地図で答え合わせをする。

黒板の地図ではマグネットのついた青い色紙を使用する。

(時間がない場合は、設問3と同時に解いてもらう)

4. 設問3をする。

[設問3]

あなたがのび太くんの家で遊んでいる時に地しんが起きました。あなたなら、どこへひなんしますか。その場所を赤色でぬりましょう。

児童がワークシートを書き終えたあと、それぞれの回答をみていく。

児童によって避難する場所は違うので、理由を聞いてみる。

例えば、避難場所に「公園」を選んだ児童に理由を聞く。

「のび太の家から近い」「水がたっぷりある」などの答えが出てくる。

だいたいの意見が出たあとで説明する。

- 大きな地震がきたら、まずものが倒れてくる恐れのない場所に避難する。
- 火災が周囲で差し迫っている場合や、「避難してください」という指示が市（自治体）からあった場合は、広域避難場所または一時避難所と呼ばれる場所に避難する。

広域避難場所と一時避難所と収容避難所

災害発生直前・直後の避難所

一時避難所: 災害発生時最初に避難するための広場、公園、空き地などの近所の一番身近な避難場所。

広域避難場所: 地震や大火などの大規模災害が発生し、一時避難所では対応しきれない場合にさらに避難するための指定場所。

公共避難所

収容避難所: わたしたちが「避難所」としてイメージしている場所。学校や大規模公共施設などが指定され、一般的に広域災害や大規模災害が発生したときに使われる。

地区の公民館: 局所的な災害など、被害の範囲がそれほどひどくないときは、地区の公民館で済まされる事が多い。

福祉対応避難所: 介護などの特別な必要をもつ御年寄りや障害者などのために、現在各地で整備されつつある新しいタイプの収容避難所。



広域避難所の目印→

5. 設問4をする。

[設問4]

のび太くんが家から小学校へひなんします。家から小学校までの道を水色で塗りましょう。

児童がワークシートに書き終えたあと、答え合わせをする。

黒板では児童がリボンを張っていくことでルートを示す。（リボンの端や曲がる場所は白のマグネットを押さえる、接着マグネットをリボンにあらかじめ貼るなどしておく）

[注意点]

- 「工事中」と書いてある場所の周りは工事の設備・用品が崩れ落ちている可能性があり、危険であること。
 - 細い道はブロック塀などが崩れている危険があること。
- を児童が確認できるよう伝える。

6. 設問5 (①と②) をする。

[設問5]

①ひなんしているときに火事を見つめました。火を消すときに使う道具の名前と写真をそれぞれつなぎあわせましょう。

[答え]

消火栓(上の写真) 防火水槽(下の写真) 消火器(真ん中の写真)

②地図の○、×、△の記号は、それぞれ①でえらんだ道具です。それぞれの記号に【 】で書いてある色をぬりましょう。

児童がワークシートに書き終えたあと、黒板で答え合わせをする。

①は写真を黒板に掲示。児童が写真の下に名前を書く形か、またはワークシートの通りつなぎあわせる形にするといひ。

消火器:

誰でも使える初期消火の道具。ピンを外しレバーを握って噴射する。

消火栓:

水道にそのままつながっている。消防隊(ポンプ車)による消火に使用するため、ホースがないものが多い。(一部でホースを格納しているものもある)

ポールのように地上にあるものと、地下に設置されているものがあるが、一番多く見かけるのは地下に設置されているほうである。

防火水槽:

地震など水道が使えなくなったときでも、水を常時貯めておく事で消火できる。これも消防隊(ポンプ車)が使用する。

②赤・青・緑のマグネットを記号につけてもらう。黒板の上のほうは付けにくいので台をつかって付けるか、または地図で児童が指定し先生がマグネットを付ける。

消火栓、防火水槽、消火器がだいたいどの位置にあるか。どう分布しているのか意見をきく。

[意見の例]

- 「消火栓は道と道のつなぎ目(十字路)についてあることが多い」
- 「工場には消火栓も防火水槽も消火器もある」などがある。

また学校内にもこのような設備があることを知ってもらう。

7. 設問6 をする。

[設問6]

地震や火事が起こったとき、まちの中には危ないところがありますか？また、このまちのいいところや、災害のときに役立ちそうなおところはありますか。みんなで話し合ひましょう。

個人の意見を発表する。できれば黒板に板書する。

[意見の例]

- 「ビルはガラスが飛散するから危なそうだ」
 - 「工場では機械が壊れて火事が起こっていそうだ」
- (逆に、地震や火事になったら役に立ちそうなものも考えてもらう場合)
- 「公園の池の水で消火活動ができるのではないか」
 - 「商店街の店で着る物、食べ物を用意できるのではないか」

意見を発表した時、なぜそこが危ないと思うのかも答えてもらう。

8. 総括をする。

[総括の例]

地震が起こったときは避難途中や家の中で怪我をしたりすることもある。手当てが遅れると命にかかわることもある。危険にあわない「いのちを大事」にする。(これは他の災害でも同じ)

火事が起こったときを考えて、まちにはいろいろな設備がある。

これらは自分たちの家のまわりにもある。ぜひ家の帰り道に消火ホースの収納棚があるか発見してほしい。

9. 模範解答をみせる。

黒板のワークシートそのままでいい。

6 ページにあるカラー版の模範解答参考にする。

◎ 発展問題 (第6問の代わりとして)

大きな地震によって、ドラえもんの町の人たちは避難所で生活することになりました。

時期は冬、飲める水と食べ物はありますが、電気も水道も使えない状態です。

みんなで力を合わせて生活する上で、町の中にあるものを使いたいとみんなは思っています。どんな場所が避難所での生活に使いそうですか。

例をもとに考えてみてください。



[例]

- 裏山の倒れた木を拾い集めて、焚き火をする。
- 商店街にある衣服売り場から、あたたかい上着をあつめて配布する。

参考文献

玉木貴「早わかり『防災』新常識」 2005年 青春出版社

模範解答の見方

設問1 地図記号	[]内にある赤い記号
設問2 のび太の家	青色に塗りつぶされた部分
設問3 地震で逃げる場所	 がついた場所(模範解答の他にもある)
設問4 小学校への避難ルート	 がついた道(2個とも安全なルート)
設問5 消火栓・防火水槽・消火器	●: 消火栓 ×: 消火器 ▲: 防火水槽

